2026年9月30日

2025年度自己点検・評価に関する総括

自己点検・評価委員会
委員長　青木　均

１．はじめに

本学は、「内部質保証に関する方針」及び「愛知学院大学内部質保証推進規程」を定めるとともに、学則において、「本大学は、その教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する」と規定している。これらに基づき、内部質保証推進会議の指示のもと、自己点検・評価委員会が教育・研究及び管理運営の各分野について自己点検・評価を実施している。

自己点検・評価は、各学部・研究科、研究組織及びセンター、事務部門における教育研究活動その他諸活動の改善・向上を図るとともに、各組織におけるPDCAサイクルと全学的なPDCAサイクルを有機的に機能させる内部質保証の取組として実施している。点検・評価は、学部及び大学院では7つの基準、研究組織では1つの基準、事務組織では各部課所の業務内容に応じた項目に基づき実施している。

2027（令和9）年度に受審予定の第4期認証評価に向けては、第3期認証評価における指摘事項を踏まえ、2024（令和6）年度に大学基準協会の点検・評価項目に基づく自己点検・評価を実施し、その結果を自己点検・評価報告書として取りまとめた。また、大学基準協会が第4期認証評価において重視する「学習成果を基軸に据えた内部質保証の実質化」の考え方を踏まえ、自己点検・評価シートの評価結果に基づく改善を着実に進めるため、特に改善勧告に該当する事項については、「課題改善計画書兼報告書」の提出を求める運用を導入し、課題の改善状況を継続的に確認することで、教育研究活動の改善・向上につなげる体制を整備している。

2025年度の点検・評価結果は、「2025年度自己点検・評価シート」及び「2025年度活動報告書（研究組織）」として取りまとめ、2026年5月26日に開催の内部質保証推進会議へ提出された。これを受け、自己点検・評価委員会では、各組織における点検・評価結果を踏まえ、教育の質保証及び質向上に向けたPDCAサイクルが適切に機能しているかについて、全学的な観点から検証を行った。その結果を以下のとおり公表する。

２．自己点検・評価シートの評価基準

「Ｓ」…本学において先進的、もしくは模範的な取り組みを行っている。
「Ａ」…特に不足を指摘する余地はなく、問題はない。
「Ｂ」…課題はあるが、現在改善に向けて計画・実行中のため今後の改善が望める。
　　なお、基礎要件（※1）において「是正勧告」「改善課題」に抵触する課題はない。
「Ｃ」…課題に対して取り組みを十分にできていない。または、基礎要件（※1）において
　　「是正勧告」「改善課題」に抵触する課題がある。

（※1）大学基準協会「基礎要件に係る評価の指針」を踏まえた本学独自の基礎要件充足状況確認チェックリスト

３．2025年度自己点検・評価シート（大学基準協会評価項目）対象組織別委員会評価結果について

＜表１＞ 組織別評価結果一覧（学部・研究科）

組織		基準１～基準10　全体								
		S評価		A評価		B評価		C評価		総計
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	
学部	文学部宗教文化学科	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	文学部歴史学科	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	文学部英語英米文化学科	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	文学部日本文化学科	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	文学部グローバル英語学科	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	商学部	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	経営学部	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	経済学部	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	法学部	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	総合政策学部	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	健康科学部健康科学科	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	健康科学部健康栄養学科	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	心理学部	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	歯学部	0	0%	17	94%	0	0%	1	6%	18
	薬学部	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	教養部	0	0%	14	100%	0	0%	0	0%	14
研究科	文学研究科	0	0%	17	94%	0	0%	1	6%	18
	心身科学研究科	0	0%	17	94%	0	0%	1	6%	18
	商学研究科	0	0%	17	94%	0	0%	1	6%	18
	経営学研究科	0	0%	16	89%	1	6%	1	6%	18
	経済学研究科	0	0%	16	94%	0	0%	1	6%	17
	法学研究科	0	0%	17	94%	0	0%	1	6%	18
	総合政策研究科	0	0%	17	94%	0	0%	1	6%	18
	歯学研究科	0	0%	18	100%	0	0%	0	0%	18
	薬学研究科	0	0%	15	83%	3	17%	0	0%	18

学部・研究科の評価対象は、基準1「理念・目的」、基準2「内部質保証」、基準4「教育・学習」、基準5「学生の受け入れ」、基準6「教員・教員組織」、基準7「学生支援」、基準9「社会連携・社会貢献」である。評価結果を見ると、ほとんどの組織がA評価を獲得しており、全体として評価水準は良好かつ安定している。S評価に該当する組織は見られなかったものの、多くの組織でA評価100％を達成しており、各基準に基づく教育研究活動や組織運営が適切に実施されていることが確認できる。

一方で、B評価及びC評価の項目は主として研究科に見られ、学部と比較して評価にばらつきが確認された。学部、研究科とも、今後は、B・C評価となった項目について要因分析を行い、改善・向上に向けた取組を着実に推進するとともに、A評価を維持している組織の取組や好事例を全学的に共有・展開することで、評価水準の平準化とさらなる質向上を図り、S評価を獲得する組織の創出につなげていくことが

期待される。

＜表２＞ 組織別評価結果一覧（研究組織・事務組織）

組織		基準１～基準10　全体								
		S評価		A評価		B評価		C評価		総計
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	
研究組織	禅研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	社会科学研究センター	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	人間文化研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	心身科学研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	ビジネス科学研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	経営管理研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	経済研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	宗教法制研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	政策科学研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	医療生命薬学研究所	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	未来口腔医療研究センター	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	語学研究所	0	0%	0	0%	2	100%	0	0%	2
	教育開発研究センター	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	心理臨床センター	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	日本語教育センター	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2
事務組織	総務部	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	2
	教務部	0	0%	7	70%	3	30%	0	0%	10
	学生部	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	キャリアセンター	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	入試センター	0	0%	2	67%	0	0%	1	33%	3
	研究推進・社会連携部	0	0%	4	80%	1	20%	0	0%	5
	大学教学改革推進企画室	0	0%	9	82%	2	18%	0	0%	11
	図書館情報センター	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	学生支援センター	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	2
	国際交流センター	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
	内部監査室	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1
	秘書部	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	3
	人事部	0	0%	1	33%	2	67%	0	0%	3
	情報推進部	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%	4
	財務部	0	0%	2	29%	4	57%	1	14%	7
	経営企画室	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1
	施設部	0	0%	1	33%	2	67%	0	0%	3

研究組織については、基準3「教育研究組織」を評価対象とし、事務組織については、基準1から基準10における各部課所の業務内容に応じた評価項目に基づく評価を行った。評価結果を見ると、全体として「A評価」が大半を占めており、多くの組織において、各基準に沿った取組が概ね適切に実施されている

ことが確認されている。しかしながら、一部の項目では「B評価」及び「C評価」も見られ、取組の実施状況、成果の検証、改善に向けた取組について、組織間で差が生じていることが分かる。特に、課題・問題点として改善が提言された事項については、取組状況や改善状況を継続的に確認するため、「課題改善計画書兼報告書」の提出を求める運用を行うなど、改善状況の把握及び改善活動の促進につなげることで、内部質保証のさらなる機能向上を図る必要がある。

4．2025年度自己点検・評価シート（大学基準協会評価項目）基準別委員会評価結果について

＜表３＞ 基準別評価結果一覧（基準１～５）

基準		点検・評価項目	S評価		A評価		B評価		C評価		総計
			組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定していること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26
		② 大学として中・長期の計画その他の諸施策を策定していること。	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1
基準2	内部質保証	① 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。	0	0%	24	89%	3	11%	0	0%	27
		② 大学の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	2
		③ 内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取り組みを行っていること。	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1
基準3	教育研究組織	① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況が適切であること。	1	6%	14	88%	1	6%	0	0%	16
		② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	15	94%	1	6%	0	0%	16
基準4	教育・学習	① 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。	0	0%	24	100%	0	0%	0	0%	24
		② 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25
		③ 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26
		④ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26
		⑤ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26
		⑥ 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26
基準5	学生の受け入れ	① 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25
		② 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。	0	0%	16	64%	0	0%	9	36%	25
		③ 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25

※評価割合が50％を超える評価区分については、該当箇所を網掛けしている

＜表４＞ 基準別評価結果の比較（基準１～５）（2025年度・2024年度）

基準		点検・評価項目	2025年度									2024年度									比較（増減）			
			S評価		A評価		B評価		C評価		総計	S評価		A評価		B評価		C評価		総計	S評価	A評価	B評価	C評価
			組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合		組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合					
基準1	理念・目的	①	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26	±0	±0	±0	±0
		②	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	0	0%	0	0%	0	0%	1	100%	1	±0	±0	1	-1
基準2	内部質保証	①	0	0%	24	89%	3	11%	0	0%	27	0	0%	23	85%	2	7%	2	7%	27	±0	1	1	-2
		②	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	2	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	2	±0	±0	±0	±0
		③	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1	0	0%	0	0%	0	0%	1	100%	1	±0	1	±0	-1
基準3	教育研究組織	①	1	6%	14	88%	1	6%	0	0%	16	1	6%	16	94%	0	0%	0	0%	17	±0	-2	1	±0
		②	0	0%	15	94%	1	6%	0	0%	16	1	6%	13	76%	3	18%	0	0%	17	-1	2	-2	±0
基準4	教育・学習	①	0	0%	24	100%	0	0%	0	0%	24	0	0%	24	100%	0	0%	0	0%	24	±0	±0	±0	±0
		②	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25	±0	±0	±0	±0
		③	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26	0	0%	24	92%	2	8%	0	0%	26	±0	2	-2	±0
		④	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26	±0	±0	±0	±0
		⑤	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26	0	0%	25	96%	0	0%	1	4%	26	±0	1	±0	-1
		⑥	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26	0	0%	24	92%	1	4%	1	4%	26	±0	2	-1	-1
基準5	学生の受け入れ	①	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25	0	0%	21	84%	4	16%	0	0%	25	±0	4	-4	±0
		②	0	0%	16	64%	0	0%	9	36%	25	0	0%	12	48%	4	16%	9	36%	25	±0	4	-4	±0
		③	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25	0	0%	22	88%	3	12%	0	0%	25	±0	3	-3	±0

※評価割合が50％を超える評価区分については、該当箇所を網掛けしている

【基準１】理念・目的

基準１においては、本学の理念が確立され、その理念に基づき時代に即応した人材の育成に努めていることが評価されている。また、各学部・学科及び各研究科においては、それぞれの「人材の養成・教育研究上の目的」が大学の教育理念・目的との連関性を踏まえて適切に設定され、学部については「愛知学院大学教育理念・目的及び各学部の『人材の養成・教育研究上の目的』」、研究科については「愛知学院大学教育理念・目的及び各研究科の『人材の養成・教育研究上の目的』」に明示するとともに、大学Webサイト並びに各学部・学科の履修要項及び大学院要項において広く公表されている。ただし、本学の理念・目的の実現に向けては、法人及び大学の中期計画の一元化を推進するとともに、成果重視型の教学マネジメント体制をさらに充実させ、その実効性を高めていくことが課題として指摘されている。

＜長所・特色＞

・教養部では、「教養セミナーⅠ・Ⅱ」及び「宗教学Ⅰ・Ⅱ」などの授業を通じて、本学の建学の理念である「行学一体」「報恩感謝」を学生に周知し、その理解を深める取り組みを継続的に実施している。

建学の精神を教養教育の中に位置付け、初年次から体系的に学ぶ機会を設けている点は、教養部独自の特色ある取り組みとなっている。（点検・評価項目①）

＜課題・問題点＞

〔改善勧告〕

・大学教学改革推進企画室では、法人及び大学の中期計画の一元化並びに成果重視型への転換をさらに推進し、実効性の高い教学マネジメント体制を構築することが課題である。（点検・評価項目②）

【基準２】内部質保証

基準２においては、内部質保証の理念及び体制が整備され、すべての学部・学科及び研究科において教育実施状況の把握と定期的な点検・評価を行う体制が構築されている。各学部・研究科では自己点検・自己評価委員会等を設置し、教育目的、教育課程、学生の受け入れ等について継続的な点検・評価を実施するなど、教育研究活動及び管理運営におけるPDCAサイクルは全学的に概ね適切に機能していると評価されている。その一方で、一部の学部・研究科では、自己点検・評価活動における検討内容や改善状況を根拠資料から十分に確認できない事例が見受けられたことから、現状説明と根拠資料との対応関係の明確化及びエビデンスの充実が課題である。また、内部質保証のさらなる実質化に向けて、各組織が自律的に改善活動を推進できる体制の強化が求められる。

＜課題・問題点＞

〔検討課題〕

・文学部宗教文化学科および文学部英語英米文化学科では、提出された根拠資料からは、委員会等においてどのような議論が行われ、どのような改善方策が検討・実施されたのかを十分に確認することができなかった。また、現状説明では文学部および学科の自己点検・自己評価委員会において授業アンケート結果の確認や改善に向けた検討を実施している旨が記載されているが、提出された根拠資料からは当該内容を十分に確認することができず、取り組み内容と現状説明との対応関係が明確ではない。（点検・評価項目①）

・文学部歴史学科、文学部日本文化学科および文学部グローバル英語学科では、提出された根拠資料からは、委員会等においてどのような議論が行われ、どのような改善方策が検討・実施されたのかを十分に確認することができなかった。（点検・評価項目①）

・薬学研究科では、自己点検・自己評価委員会では自己点検・評価シートの確認が行われているものの、学修成果や教育課程など、研究科の教育の質保証及び運営改善に関する事項についての検討内容を十分に確認することができなかった。（点検・評価項目①）

・大学教学改革推進企画室では、特に前年度に指摘された課題に対し、一定の改善がみられるが、いまだ各組織の自己改善能力を高めるという点までは至っておらず、各組織の改善活動が高いレベルで自走できるための支援を企画・工夫することが求められる。（点検・評価項目①）

【基準３】教育研究組織

基準3においては、教育研究組織が適切に設置され、地域連携やグローバル社会への対応、最先端の研究活動について良好であると評価されている。各研究所・研究センターにおいては、建学の精神及び「愛知学院大学教育理念・目的」に適合した目的及び活動方針を定め、学問分野の研究動向や社会的要請を踏まえた活動を展開するとともに、その成果について定期的な点検・評価を実施している。一方で、一部の研究組織においては、研究体制の維持・強化や活動実績と報告内容との整合性の確保が課題となっており、教育研究組織の適切性について継続的に検証・改善していくことが求められている。

＜長所・特色＞

・経済研究所では、名城公園キャンパスにおける名古屋市の「NAGOYA FRONTIER TERRACE」の開設に伴い、地元地域の産業・経済および地域社会に貢献する活動を積極的に展開している。（点検・評価項目①）

・日本語教育センターでは、「日本語教師養成課程」を積極的に運営するとともに、同課程について、2024年度に創設された国家資格「登録日本語教員」に対応する「登録日本語教員養成機関」及び「登録実践研修機関」として早期に文部科学省へ申請を行い、2025年度に両機関として登録されたことは、社会的要請に迅速かつ的確に対応した取組として評価でき、日本語教育センターの特色となっている。（点検・評価項目①）

＜課題・問題点＞

〔検討課題〕

・禅研究所では、「研究員は人数が減少し、しかもすべて他に本属を持つ兼任研究員であり、研究所の活動を主たる職務とすることができない」との記載がある。また、研究所の担う職務が多岐にわたることを踏まえると、現在の研究体制において、それらの活動を十分に遂行できる体制が整備されているかについては検討が必要である。実際、本研究所の研究活動として位置づけられる「禅籍資料調査」については、2024年度および2025年度の活動報告書において連続して「中止」とされており、「毎年実施している」とする記載との整合性について課題が認められる。（点検・評価項目①）

【基準４】教育・学習

基準４においては、各学部・学科及び研究科が、それぞれの教育目的に基づきディプロマ・ポリシー（DP）を策定し、学位取得に必要な知識・技能・態度等の学修成果を明確に示している。また、DPとの整合性を踏まえてカリキュラム・ポリシー（CP）を策定し、教育課程を体系的かつ順次的に編成するとともに、カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリー等を活用して教育課程の構造を明確化している。さらに、シラバスの整備、授業時間外学習の促進、履修指導、成績評価及び学位授与に係る体制についても適切に整備され、教育の質保証に向けた取組が行われている。さらに、各研究科において、研究者、教育者及び高度専門職業人の養成を目的として、研究指導計画に基づく指導や学位論文審査等を適切に実施している。

また、各学部・研究科はアセスメント・プランを策定し、GPA、卒業研究・卒業論文、学位論文審査、学生アンケート、アセスメント・テスト、ルーブリック等を活用して、DPに示された学修成果の達成状況を多角的に測定・評価している。さらに、その結果を各組織の自己点検・評価やFD活動等を通じて検証し、教育課程や教育方法の改善・向上につなげる取組を進めていることが評価されている。

【基準５】学生の受け入れ

＜表５＞ 学部・学科及び研究科における志願者数・合格者数・入学者数の推移（過去3年）

○学士課程

学部	学科	入試の種類	2024年度					2025年度					2026年度				
			志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B
文学部	宗教文化学科	一般選抜	258	146	27	37	0.73	297	170	23	37	0.62	273	118	26	37	0.70
		総合型選抜	19	14	14	5	2.80	17	16	16	5	3.20	18	15	15	5	3.00
		推薦型選抜	56	51	47	28	1.68	50	46	37	28	1.32	50	42	40	28	1.43
		その他	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		333	211	88	70	1.26	364	232	76	70	1.09	341	175	81	70	1.16
	歴史学科	一般選抜	1166	433	58	76	0.76	1150	405	62	76	0.82	1070	377	62	76	0.82
		総合型選抜	19	12	12	10	1.20	27	13	13	10	1.30	32	11	11	10	1.10
		推薦型選抜	144	84	60	44	1.36	177	98	69	44	1.57	138	87	66	44	1.50
		その他	3	1	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		1332	530	130	130	1.00	1354	516	144	130	1.11	1240	475	139	130	1.07
	英語英米文化学科	一般選抜	513	389	65	70	0.93	584	265	51	61	0.84	430	132	21	61	0.34
		総合型選抜	10	10	10	4	2.50	14	12	9	15	0.60	26	25	17	15	1.13
		推薦型選抜	54	54	35	36	0.97	103	99	63	34	1.85	103	97	70	34	2.06
		その他	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	1	0	0	0	－
	学科合計		577	453	110	110	1.00	701	376	123	110	1.12	560	254	108	110	0.98
	日本文化学科	一般選抜	1057	383	45	67	0.67	895	348	51	67	0.76	794	327	52	67	0.78
		総合型選抜	14	8	7	8	0.88	26	12	12	8	1.50	24	13	13	8	1.63
		推薦型選抜	101	84	64	35	1.83	134	82	62	35	1.77	89	70	57	35	1.63
		その他	1	0	0	0	－	2	2	2	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		1173	475	116	110	1.05	1057	444	127	110	1.15	907	410	122	110	1.11
	グローバル英語学科	一般選抜	531	369	54	66	0.82	612	273	35	63	0.56	491	200	44	61	0.72
		総合型選抜	23	21	10	10	1.00	39	37	24	15	1.60	48	42	24	17	1.41
		推薦型選抜	75	71	47	34	1.38	110	93	65	32	2.03	86	64	52	32	1.63
		その他	1	1	0	0	－	0	0	0	0	－	2	1	0	0	－
	学科合計		630	462	111	110	1.01	761	403	124	110	1.13	627	307	120	110	1.09
文学部合計			4045	2131	555	530	1.05	4237	1971	594	530	1.12	3675	1621	570	530	1.08
商学部	商学科	一般選抜	1097	341	59	148	0.40	1274	334	57	148	0.39	1927	430	94	148	0.64
		総合型選抜	17	4	4	2	2.00	10	4	4	2	2.00	14	4	4	2	2.00
		推薦型選抜	309	224	201	100	2.01	289	217	195	100	1.95	312	198	183	100	1.83
		その他	4	0	0	0	－	1	0	0	0	－	2	1	0	0	－
	学科合計		1427	569	264	250	1.06	1574	555	256	250	1.02	2255	633	281	250	1.12
商学部合計			1427	569	264	250	1.06	1574	555	256	250	1.02	2255	633	281	250	1.12
経営学部	経営学科	一般選抜	2320	844	150	220	0.68	3348	775	121	220	0.55	2791	693	160	210	0.76
		総合型選抜	32	9	9	7	1.29	51	7	7	7	1.00	40	9	9	5	1.80
		推薦型選抜	359	206	166	63	2.63	470	207	174	63	2.76	488	214	182	75	2.43
		その他	8	1	1	0	－	12	3	2	0	－	4	3	2	0	－
	学科合計		2719	1060	326	290	1.12	3881	992	304	290	1.05	3323	919	353	290	1.22
経営学部合計			2719	1060	326	290	1.12	3881	992	304	290	1.05	3323	919	353	290	1.22

学部	学科	入試の種類	2024年度					2025年度					2026年度				
			志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B
経済学部	経済学科	一般選抜	2464	830	124	195	0.64	3086	734	107	195	0.55	2564	704	148	195	0.76
		総合型選抜															
		推薦型選抜	407	228	161	75	2.15	444	249	179	75	2.39	463	211	166	75	2.21
		その他	3	2	1	0	－	5	3	3	0	－	5	3	2	0	－
	学科合計		2874	1060	286	270	1.06	3535	986	289	270	1.07	3032	918	316	270	1.17
経済学部合計			2874	1060	286	270	1.06	3535	986	289	270	1.07	3032	918	316	270	1.17
法学部	法律学科	一般選抜	1899	681	93	120	0.78	1805	684	90	120	0.75	2207	714	117	120	0.98
		総合型選抜	10	3	3	3	1.00	10	4	4	3	1.33	31	6	6	3	2.00
		推薦型選抜	259	129	87	67	1.30	277	134	98	67	1.46	254	170	102	67	1.52
		その他	0	0	0	0	－	1	0	0	0	－	2	0	0	0	－
	学科合計		2168	813	183	190	0.96	2093	822	192	190	1.01	2494	890	225	190	1.18
	現代社会法学科	一般選抜	914	264	32	66	0.48	970	305	49	66	0.74	589	233	43	66	0.65
		総合型選抜	13	3	3	2	1.50	17	3	3	2	1.50	16	5	5	2	2.50
		推薦型選抜	131	85	78	37	2.11	143	84	68	37	1.84	109	86	75	37	2.03
		その他	0	0	0	0	－	2	1	1	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		1058	352	113	105	1.08	1132	393	121	105	1.15	714	324	123	105	1.17
法学部合計			3226	1165	296	295	1.00	3225	1215	313	295	1.06	3208	1214	348	295	1.18
総合政策学部	総合政策学科	一般選抜	1361	607	90	122	0.74	1320	530	96	113	0.85	1546	463	80	113	0.71
		総合型選抜	32	6	6	6	1.00	37	10	10	10	1.00	45	10	9	10	0.90
		推薦型選抜	216	157	128	82	1.56	211	162	114	87	1.31	209	173	139	87	1.60
		その他	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		1609	770	224	210	1.07	1568	702	220	210	1.05	1800	646	228	210	1.09
総合政策学部合計			1609	770	224	210	1.07	1568	702	220	210	1.05	1800	646	228	210	1.09
健康科学部	健康科学科	一般選抜	1300	465	69	102	0.68	1465	409	88	102	0.86	1332	357	68	102	0.67
		総合型選抜	60	20	20	18	1.11	90	23	23	18	1.28	86	21	21	18	1.17
		推薦型選抜	239	118	91	60	1.52	220	125	94	60	1.57	214	117	97	60	1.62
		その他	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		1599	603	180	180	1.00	1775	557	205	180	1.14	1632	495	186	180	1.03
	健康栄養学科	一般選抜	354	149	21	42	0.50	219	119	19	42	0.45	322	150	25	42	0.60
		総合型選抜	27	15	15	8	1.88	30	19	19	8	2.38	38	23	23	13	1.77
		推薦型選抜	83	58	46	30	1.53	64	57	45	30	1.50	60	51	35	25	1.40
		その他	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		464	222	82	80	1.03	313	195	83	80	1.04	420	224	83	80	1.04
健康科学部合計			2063	825	262	260	1.01	2088	752	288	260	1.11	2052	719	269	260	1.03
心理学部	心理学科	一般選抜	1091	448	67	103	0.65	1081	393	67	103	0.65	1053	373	70	103	0.68
		総合型選抜	35	9	9	5	1.80	48	9	9	5	1.80	42	7	7	5	1.40
		推薦型選抜	183	125	86	52	1.65	201	139	103	52	1.98	183	123	94	52	1.81
		その他	1	0	0	0	－	2	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		1310	582	162	160	1.01	1332	541	179	160	1.12	1278	503	171	160	1.07
心理学部合計			1310	582	162	160	1.01	1332	541	179	160	1.12	1278	503	171	160	1.07
歯学部	歯学科	一般選抜	287	205	46	74	0.62	344	251	64	74	0.86	478	253	71	74	0.96
		総合型選抜	11	11	11	8	1.38	14	13	11	8	1.38	17	15	15	8	1.88
		推薦型選抜	41	40	26	43	0.60	46	45	37	43	0.86	50	48	39	43	0.91
		その他	1	1	1	0	－	1	1	0	0	－	2	2	2	0	－
	学科合計		340	257	84	125	0.67	405	310	112	125	0.90	547	318	127	125	1.02
歯学部合計			340	257	84	125	0.67	405	310	112	125	0.90	547	318	127	125	1.02
薬学部	医療薬学科	一般選抜	921	465	85	93	0.91	981	431	82	93	0.88	1048	475	84	93	0.90
		総合型選抜															
		推薦型選抜	118	108	71	52	1.37	133	110	83	52	1.60	117	87	60	52	1.15
		その他	1	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	学科合計		1040	573	156	145	1.08	1114	541	165	145	1.14	1165	562	144	145	0.99
薬学部合計			1040	573	156	145	1.08	1114	541	165	145	1.14	1165	562	144	145	0.99
学部総計			20653	8992	2615	2535	1.03	22959	8565	2720	2535	1.07	22335	8053	2807	2535	1.11

○修士課程

研究科	専攻	入試の種類	2024年度					2025年度					2026年度				
			志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B
文学研究科	宗教学仏教学専攻	一般入試	2	2	2	10	0.20	1	1	1	10	0.10	1	1	1	10	0.10
		推薦入試	3	2	2	0	－	0	0	0	0	－	1	1	1	0	－
		特別入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
		社会人入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	専攻合計		5	4	4	10	0.40	1	1	1	10	0.10	2	2	2	10	0.20
	歴史学専攻	一般入試	1	0	0	10	0.00	4	3	3	10	0.30	3	2	2	10	0.20
		推薦入試	1	1	1	0	－	6	6	6	0	－	2	2	2	0	－
		特別入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
		社会人入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	1	1	1	0	－
	専攻合計		2	1	1	10	0.10	10	9	9	10	0.90	6	5	5	10	0.50
	英語圏文化専攻	一般入試	2	2	2	10	0.20	3	3	2	10	0.20	3	3	3	10	0.30
		推薦入試	0	0	0	0	－	1	1	1	0	－	0	0	0	0	－
		特別入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
		社会人入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	専攻合計		2	2	2	10	0.20	4	4	3	10	0.30	3	3	3	10	0.30
	日本文化専攻	一般入試	0	0	0	10	0.00	1	0	0	10	0.00	2	2	2	10	0.20
		推薦入試	2	2	2	0	－	2	2	2	0	－	0	0	0	0	－
		特別入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
		社会人入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	専攻合計		2	2	2	10	0.20	3	2	2	10	0.20	2	2	2	10	0.20
文学研究科合計			11	9	9	40	0.23	18	16	15	40	0.38	13	12	12	40	0.30
心身科学研究科	心理学専攻	一般入試	48	11	7	20	0.35	26	9	7	20	0.35	30	6	5	20	0.25
		推薦入試															
		特別入試	6	6	5	0	－	5	3	3	0	－	5	3	3	0	－
		社会人入試	0	0	0	0	－	1	0	0	0	－	2	2	1	0	－
	専攻合計		54	17	12	20	0.60	32	12	10	20	0.50	37	11	9	20	0.45
	健康科学専攻	一般入試	0	0	0	10	0.00	0	0	0	10	0.00	4	3	3	10	0.30
		推薦入試	2	2	2	0	－	0	0	0	0	－	1	1	1	0	－
		特別入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
		社会人入試	2	2	2	0	－	1	1	1	0	－	0	0	0	0	－
	専攻合計		4	4	4	10	0.40	1	1	1	10	0.10	5	4	4	10	0.40
心身科学研究科合計			58	21	16	30	0.53	33	13	11	30	0.37	42	15	13	30	0.43
商学研究科	商学専攻	一般入試	0	0	0	10	0.00	2	2	1	10	0.10	3	1	1	10	0.10
		推薦入試	1	1	1	0	－	1	1	1	0	－	2	2	2	0	－
		特別入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
		社会人入試	0	0	0	0	－	2	2	2	0	－	3	1	1	0	－
		3年次対象入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	専攻合計		1	1	1	10	0.10	5	5	4	10	0.40	8	4	4	10	0.40
商学研究科合計			1	1	1	10	0.10	5	5	4	10	0.40	8	4	4	10	0.40
経営学研究科	経営学専攻	一般入試	1	0	0	10	0.00	0	0	0	10	0.00	0	0	0	10	0.00
		推薦入試	0	0	0	0	－	1	1	0	0	－	0	0	0	0	－
		特別入試	1	1	1	0	－	4	3	3	0	－	1	1	1	0	－
		社会人入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
		3年次対象入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	1	0	0	0	－
	専攻合計		2	1	1	10	0.10	5	4	3	10	0.30	2	1	1	10	0.10
経営学研究科合計			2	1	1	10	0.10	5	4	3	10	0.30	2	1	1	10	0.10
経済学研究科	経済学専攻	一般入試	0	0	0	7	0.00	2	2	2	7	0.29	0	0	0	7	0.00
		推薦入試	0	0	0	0	－	1	1	1	0	－	0	0	0	0	－
		特別入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
		社会人入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	1	1	0	0	－
		3年次対象入試	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－
	専攻合計		0	0	0	7	0.00	3	3	3	7	0.43	1	1	0	7	0.00
経済学研究科合計			0	0	0	7	0.00	3	3	3	7	0.43	1	1	0	7	0.00

研究科	専攻	入試の種類	2024年度					2025年度					2026年度				
			志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B
法学研究科	法律学専攻	一般入試	10	6	5	15	0.33	9	7	6	15	0.40	9	2	2	15	0.13
		推薦入試	1	1	1	0	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
		特別入試	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
		社会人入試	4	4	4	0	-	7	5	5	0	-	8	6	6	0	-
		3年次対象入試	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	専攻合計		15	11	10	15	0.67	16	12	11	15	0.73	17	8	8	15	0.53
法学研究科合計			15	11	10	15	0.67	16	12	11	15	0.73	17	8	8	15	0.53
総合政策研究科	総合政策専攻	一般入試	3	3	2	6	0.33	0	0	0	6	0.00	0	0	0	6	0.00
		推薦入試	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
		特別入試	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
		社会人入試	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
	専攻合計		3	3	2	6	0.33	0	0	0	6	0.00	0	0	0	6	0.00
総合政策研究科合計			3	3	2	6	0.33	0	0	0	6	0.00	0	0	0	6	0.00
研究科修士課程総計			90	46	39	118	0.33	80	53	47	118	0.40	83	41	38	118	0.32

○博士課程

研究科	専攻	入試の種類	2024年度					2025年度					2026年度				
			志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B	志願者	合格者	入学者(A)	入学定員(B)	A/B
文学研究科	宗教学仏教学専攻	一般入試	0	0	0	4	0.00	0	0	0	4	0.00	0	0	0	4	0.00
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試															
	専攻合計		0	0	0	4	0.00	0	0	0	4	0.00	0	0	0	4	0.00
	歴史学専攻	一般入試	0	0	0	5	0.00	2	2	2	5	0.40	0	0	0	5	0.00
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試															
	専攻合計		0	0	0	5	0.00	2	2	2	5	0.40	0	0	0	5	0.00
	英語圏文化専攻	一般入試	1	1	1	5	0.20	0	0	0	5	0.00	1	1	1	5	0.20
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試															
	専攻合計		1	1	1	5	0.20	0	0	0	5	0.00	1	1	1	5	0.20
	日本文化専攻	一般入試	0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試															
	専攻合計		0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00
文学研究科合計			1	1	1	19	0.05	2	2	2	19	0.11	1	1	1	19	0.05
心身科学研究科	心理学専攻	一般入試	1	1	1	4	0.25	0	0	0	4	0.00	0	0	0	4	0.00
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試															
	専攻合計		1	1	1	4	0.25	0	0	0	4	0.00	0	0	0	4	0.00
	健康科学専攻	一般入試	1	1	1	4	0.25	0	0	0	4	0.00	2	2	2	4	0.50
		推薦入試	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0	-
		特別入試															
		社会人入試	4	4	4	0	-	0	0	0	0	-	2	2	2	0	-
	専攻合計		5	5	5	4	1.25	0	0	0	4	0.00	4	4	4	4	1.00
心身科学研究科合計			6	6	6	8	0.75	0	0	0	8	0.00	4	4	4	8	0.50
商学研究科	商学専攻	一般入試	0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試															
	専攻合計		0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00
商学研究科合計			0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00	0	0	0	5	0.00

研究科	専攻	入試の種類	2024年度					2025年度					2026年度				
			志願者	合格者	入学者（A）	入学定員（B）	A/B	志願者	合格者	入学者（A）	入学定員（B）	A/B	志願者	合格者	入学者（A）	入学定員（B）	A/B
経営学研究科	経営学専攻	一般入試	0	0	0	5	0.00	1	1	1	5	0.20	0	0	0	5	0.00
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試															
	専攻合計		0	0	0	5	0.00	1	1	1	5	0.20	0	0	0	5	0.00
経営学研究科合計			0	0	0	5	0.00	1	1	1	5	0.20	0	0	0	5	0.00
法学研究科	法律学専攻	一般入試	0	0	0	2	0.00	0	0	0	2	0.00	1	1	1	2	0.50
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試															
	専攻合計		0	0	0	2	0.00	0	0	0	2	0.00	1	1	1	2	0.50
法学研究科合計			0	0	0	2	0.00	0	0	0	2	0.00	1	1	1	2	0.50
歯学研究科	・・・・・・・	一般入試	16	16	16	18	0.89	16	16	16	18	0.89	23	23	22	18	1.22
		推薦入試															
		特別入試															
		社会人入試	1	1	1	0	－	6	6	6	0	－	5	5	5	0	－
	専攻合計		17	17	17	18	0.94	22	22	22	18	1.22	28	28	27	18	1.50
歯学研究科合計			17	17	17	18	0.94	22	22	22	18	1.22	28	28	27	18	1.50
薬学研究科	医療薬学専攻	一般入試	0	0	0	－	－	0	0	0	－	－	0	0	0	－	－
		推薦入試	1	1	0	－	－	2	2	2	－	－	1	1	1	－	－
		特別入試															
		社会人入試	0	0	0	－	－	1	1	1	－	－	0	0	0	－	－
	専攻合計		1	1	0	3	0.00	3	3	3	3	1.00	1	1	1	3	0.33
薬学研究科合計			1	1	0	3	0.00	3	3	3	3	1.00	1	1	1	3	0.33
研究科博士課程総計			25	25	24	60	0.40	28	28	28	60	0.47	35	35	34	60	0.57

※薬学研究科（博士課程）の入学定員は、入試制度毎には設けておらず、入試制度全体で設けている

基準５においては、各学部・学科及び研究科の学生受け入れ方針（AP）は、DP及びCPを踏まえて適切に設定され、大学Webサイトや入学試験要項等に公表されている。APには、「求める学生像」として、入学前の学習歴、学力水準、能力等が具体的に明示されている。

学部の入学者選抜については、「愛知学院大学入学試験委員会規程」に基づき設置された入学試験委員会の責任のもと、試験内容や実施方法等の審議、選抜制度の点検・検証を行い、公平かつ厳正に実施している。また、特別な配慮を必要とする受験生については、別室受験等の対応を行い、公平な受験機会の確保に努めている。研究科においても、APに基づく選抜制度を整備し、大学院委員会の審議を経て入学者を決定している。

学部の定員管理については、大半の学部・学科で入学定員及び収容定員は概ね適正な水準にある。ただし、歯学科では定員充足率が低い状況が続いているものの、国家試験合格率向上に向けた取組等を通じて志願者確保に努めるなど、改善に向けた取組を進めている。

大学院の定員管理については、多くの研究科で収容定員未充足が課題となっており、第3期認証評価以降、総合政策研究科博士後期課程の募集停止など定員適正化に向けた対応を行っている。今後も、研究科の教育研究上の特色や社会的ニーズを踏まえ、定員管理や研究科の在り方について継続的に検討していく必要がある。

＜課題・問題点＞

〔改善勧告〕

・歯学部では、入学定員充足率および収容定員充足率が基準を下回り、過去3年間にわたり未充足の状態が続いている。特に収容定員充足率は0.84と低く、学生確保が十分にできていない状況にある。（点検・

評価項目②）

・文学研究科では、博士前期・後期課程ともに収容定員充足率が基準を大きく下回っており、特に後期課程は0.09と極めて深刻で、前期課程（歴史学専攻を除く）および後期課程の全専攻で大幅な未充足となっている。（点検・評価項目②）

・心身科学研究科では、健康科学専攻（博士前期）および心理学専攻（博士後期）において収容定員充足率が基準を下回っており、専攻単位で差はあるものの、研究科全体として未充足状態が継続している。（点検・評価項目②）

・商学研究科では、博士前期・後期課程ともに収容定員充足率が大幅に低く、特に後期課程は0.07と極めて低い水準で、入学定員・収容定員ともに未充足の深刻な状態が研究科全体で継続している。（点検・評価項目②）

・経営学研究科では、博士前期・後期課程ともに収容定員充足率が極めて低く、特に後期課程は0.07と著しく基準を下回り、入学定員・収容定員ともに未充足の深刻な状態が全体として継続している。（点検・評価項目②）

・経済学研究科では、収容定員充足率が極めて低く、入学定員・収容定員ともに未充足の深刻な状況にある。（点検・評価項目②）

・法学研究科では、博士後期課程で在籍者がいない状態が継続し、収容定員充足率が0と極めて低く、基準を満たさず、入学定員・収容定員の未充足が続いている。（点検・評価項目②）

・総合政策研究科では、博士前期において収容定員充足率が低く、入学定員・収容定員ともに未充足が続いており、0.25と基準を下回っている。（点検・評価項目②）

・入試センターでは、歯学部および大学院において入学定員・収容定員の未充足が継続しており、学部・大学院全体で定員充足率に課題がある。（点検・評価項目②）

＜表６＞ 基準別評価結果一覧（基準６～10）

基準		点検・評価項目	S評価		A評価		B評価		C評価		総計
			組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合	
基準6	教員・教員組織	① 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	0	0%	27	100%	0	0%	0	0%	27
		② 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25
		③ 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	0	0%	28	100%	0	0%	0	0%	28
		④ 教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26
基準7	学生支援	① 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	0	0%	29	94%	2	6%	0	0%	31
		② 学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	6	100%	0	0%	0	0%	6
基準8	教育研究等環境	① 教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環境を適切に整備していること。	0	0%	1	33%	2	67%	0	0%	3
		② 図書館サービス及び学術情報サービスを提供するための体制を備えていること。また、それらを適切に機能させていること。	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1
		③ 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	3
		④ 教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	3	50%	3	50%	0	0%	6
基準9	社会連携・社会貢献	① 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	0	0%	25	96%	1	4%	0	0%	26
		② 社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	25	96%	1	4%	0	0%	26
基準10	大学運営・財務（1）大学運営	① 大学運営に関する方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示していること。また、それに基づいた適切な大学運営を行っていること。 加えて、大学を設置・管理する法人の運営が適切であること。	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
		② 予算編成及び予算執行を適切に行っていること。	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1
		③ 法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1
		④ 大学運営に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	4	67%	2	33%	0	0%	6
	大学運営・財務（2）財務	① 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定していること。	0	0%	0	0%	0	0%	1	100%	1
		② 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政基盤を確立していること。	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1
		③ 財務に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1
		総計	**1**	**0.2%**	**505**	**93.9%**	**22**	**4.1%**	**10**	**1.9%**	**538**

※評価割合が50％を超える評価区分については、該当箇所を網掛けしている

＜表７＞ 基準別評価結果の比較（基準６～10）（2025年度・2024年度）

基準		点検・評価項目	2025年度									2024年度									比較（増減）			
			S評価		A評価		B評価		C評価		総計	S評価		A評価		B評価		C評価		総計	S評価	A評価	B評価	C評価
			組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合		組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合	組織数	割合					
基準6	教員・教員組織	①	0	0%	27	100%	0	0%	0	0%	27	0	0%	24	89%	3	11%	0	0%	27	±0	3	-3	±0
		②	0	0%	25	100%	0	0%	0	0%	25	0	0%	19	76%	6	24%	0	0%	25	±0	6	-6	±0
		③	0	0%	28	100%	0	0%	0	0%	28	0	0%	26	93%	2	7%	0	0%	28	±0	2	-2	±0
		④	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%	26	0	0%	24	92%	2	8%	0	0%	26	±0	2	-2	±0
基準7	学生支援	①	0	0%	29	94%	2	6%	0	0%	31	0	0%	28	88%	3	9%	1	3%	32	±0	1	-1	-1
		②	0	0%	6	100%	0	0%	0	0%	6	0	0%	4	80%	1	20%	0	0%	5	±0	2	-1	±0
基準8	教育研究等環境	①	0	0%	1	33%	2	67%	0	0%	3	0	0%	2	67%	1	33%	0	0%	3	±0	-1	1	±0
		②	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1	±0	±0	±0	±0
		③	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	3	0	0%	2	67%	1	33%	0	0%	3	±0	1	-1	±0
		④	0	0%	3	50%	3	50%	0	0%	6	0	0%	2	40%	3	60%	0	0%	5	±0	1	±0	±0
基準9	社会連携・社会貢献	①	0	0%	25	96%	1	4%	0	0%	26	0	0%	25	96%	1	4%	0	0%	26	±0	±0	±0	±0
		②	0	0%	25	96%	1	4%	0	0%	26	0	0%	21	81%	5	19%	0	0%	26	±0	4	-4	±0
基準10	大学運営・財務（1）大学運営	①	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2	±0	±0	±0	±0
		②	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	±0	±0	±0	±0
		③	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	±0	±0	±0	±0
		④	0	0%	4	67%	2	33%	0	0%	6	0	0%	2	67%	1	33%	0	0%	3	±0	2	1	±0
	大学運営・財務（2）財務	①	0	0%	0	0%	0	0%	1	100%	1	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	±0	±0	-1	1
		②	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	±0	±0	±0	±0
		③	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1	±0	±0	±0	±0
																					-1	41	-32	-6

※評価割合が50％を超える評価区分については、該当箇所を網掛けしている

【基準６】教員・教員組織

基準６においては、教員組織の編制及び運営について、教育・研究・社会貢献を有機的に連携させる体制が整備されていると評価されている。各学部・学科及び研究科では、「愛知学院大学教員組織の編制方針」等に基づき、教育研究上の目的や特色に応じた教員組織の編制方針を策定し、適切に明示している。

各学部・学科の教員数については、大学設置基準に定める必要教員数をすべて満たしており、教員の募集、採用及び昇任についても、各種規程等に基づき、公正かつ厳格に実施している。しかしながら、教員の担当授業時間の把握・管理体制、年齢構成及び多様性の偏り等については、継続的な改善が求められている。また、教員の年齢構成は概ね適正であるものの、学部・学科によっては男女比の偏りが見られるため、中長期的な視点から多様性を考慮した教員構成の実現が求められる。

大学院においては、各研究科で教員組織の編制方針を策定し、職位や年齢構成、カリキュラムへの対応、授業負担等を踏まえた適切な教員配置を行っている。教員数についても、すべての研究科で大学院設置基準を満たしている。教員の募集、採用及び昇任は、大学及び各研究科の規程等に基づき、計画的かつ厳格に実施している。

FD活動については、全学的なFD研究会の開催に加え、各学部・学科及び研究科において、FD委員会による活動、研究授業、授業改善に向けた取組等を実施している。また、授業評価アンケートを定期的に実施し、教員による結果の公表及び授業改善に活用している。一方で、授業評価アンケートの回答率については依然として低い状況が見られることから、学生の回答促進に向けた継続的な取組が課題となっている。今後は、個々の教員による改善にとどまらず、組織的な教育改善につなげる取組の充実が求められる。なお、教員組織の適切性については、各研究科の自己点検・自己評価委員会等において検証を行い、その結果に基づき必要な改善を進めている。

＜長所・特色＞

・文学部日本文化学科では、書道家、博物館関係の実務経験、寺院住職としての活動など、各教員が有する実務的・社会的経験を教育に還元している点は本学科の特色であり、研究活動および社会貢献活動の活性化と教員の資質向上に資する取組を実施している。（点検・評価項目③）

＜課題・問題点＞

〔検討課題〕

・教務部では、昨年に引き続き学生による「授業評価アンケート」の回答率の低さが課題として取り上げられている。「授業評価アンケート」項目の見直しを行うなど改善は進んでいるが、さらなる継続的な対応が求められる。（点検・評価項目③）

【基準７】学生支援

基準７においては、学修支援、生活支援、キャリア支援、障がい学生支援、留学生支援など、多様な学生支援体制が整備されていると評価されている。また、一部の学科では、キャリアセンターとの連携によるきめ細かなキャリア支援が展開されているほか、国際交流センターにおいては、English Loungeや留学生チューター制度など、学生同士のピア・サポートを活用した特色ある支援が継続的に実施されている。一方で、一部の学部・研究科及び事務組織においては、学生支援やキャリア支援に関する取組内容と根拠資料との対応関係が十分に示されていない事例や、支援の具体的内容や効果を客観的に確認することが困難な事例が見受けられた。また、合理的配慮に係る支援体制の充実や、各キャンパスにおける支援状況の把握・共有、留学生会館設置に向けた検討状況の明確化なども課題として挙げられている。今後は、これらの支援のさらなる充実に向けて、PDCAサイクルの実効性を高め、課題の把握、改善策の実施及びその効果検証を組織的に行う仕組みの構築が求められている。

＜長所・特色＞

・文学部宗教文化学科では、キャリアセンターと学科が継続的に連携し、演習科目を活用した合同キャリ

アセミナーの実施や、個人ポートフォリオを活用した継続的な学生支援を展開している。また、就職情報の提供方法についても、学生の実態を踏まえた情報の整理・発信を行うなど、支援方法の改善に継続的に取り組んでおり、きめ細かなキャリア支援を実現している。（点検・評価項目①）

・国際交流センターでは、日進・名城公園の両キャンパスにおいて、English Loungeおよび留学生チューター制度のSAは、本学学生が臨時職員として担うピア・サポートとしてそれぞれ10年以上、7年以上継続して実施されている。この取組は、学生の留学支援や留学生の生活・学習支援に寄与しているだけでなく、支援に携わる学生にとっても実践的な正課外学習の機会となっており、本学の特色ある取組として機能している。（点検・評価項目①）

＜課題・問題点＞

〔検討課題〕

・文学部歴史学科では、学科独自のキャリア支援の取組については現在検討段階であることから、学科の特色を生かした主体的なキャリア支援の充実が期待される。（点検・評価項目①）

・文学部グローバル英語学科では、学科キャリアガイダンス、基礎ゼミ、TOEIC、海外語学研修、インターンシップ等の取組について、それぞれが学生のキャリア形成支援としてどのように位置づけられ、どのような実施体制のもとで展開されているのかを、現状説明及び根拠資料においてより明確に示すことが望まれる。（点検・評価項目①）

・経営学部では、進路支援に関する取組は適切に実施されているものの、提出された根拠資料からは、キャリアデザイン関連科目やインターンシップ等の進路支援の具体的内容を十分に読み取ることができない。（点検・評価項目①）

・健康科学部健康科学科では、「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」について、外部組織と連携した活動が実施されていることは確認できるものの、それらの活動がキャリア教育及び進路支援にどのように結び付いているのかを示す説明や根拠資料が十分ではない。また、昨年度の自己点検・評価シートにおいても、取組内容を具体的に提示するよう指摘しているが、今回の現状報告においても記載内容に大きな改善や変化は認められない。（点検・評価項目①）

・健康科学部健康栄養学科では、現状説明では、キャリアセンターと連携した進路支援や個々の学生の特性等に応じた就職支援について記載されているが、その具体的な内容や支援方法については十分に読み取ることができない。また、昨年度の自己点検・評価シートにおいても、取組内容を具体的に提示するよう指摘しているが、今回の現状報告においても記載内容に大きな改善や変化は認められない。（点検・評価項目①）

・教養部では、アドバイザーによる具体的な支援内容や教職協働の内容については、現状説明及び根拠資料から十分に読み取りにくいことから、第三者にも理解できるよう、より具体的な記述及び根拠資料の充実が望まれる。（点検・評価項目①）

・文学研究科では、現状説明に記載されている事項について、根拠資料として提出された委員会議題からは当該事項の承認を確認することができない。取組内容や意思決定過程を客観的に確認できるよう、承認事実が確認できる議事録等を根拠資料として提出するなど、現状説明と根拠資料との対応関係をより明確にすることが望まれる。（点検・評価項目①）

・総合政策研究科では、キャリア形成科目として位置づけられている英語科目及びFD研究会における就

職活動支援に関する取組について、現状説明には記載があるものの、提出された根拠資料からはその内容を十分に確認することができない。現状説明と根拠資料との対応関係をより明確にし、取組内容を客観的に示すことが望まれる。（点検・評価項目①）

・薬学研究科では、現状説明では、遠隔講義の実施科目として「医療分子薬学特講Ⅲ」が挙げられているが、提出された根拠資料において当該科目の記載を確認することができない。現状説明と根拠資料との対応関係を整理し、必要に応じて現状説明又は根拠資料の修正を行うことが望まれる。（点検・評価項目①）

・教務部では、学生支援に関する情報は、学生ポータルサイト等を通じて提供されているが、学生アンケート等を踏まえた利便性の検証や改善状況が確認できない。大学目線だけでなく、学生目線での有効性を検証し、改善につなげていくことが望まれる。加えて、学生が能力に応じて自律的に学習を進められるよう支援する仕組みについては、現状報告が日進キャンパスに限定されており、全学的な取組状況を確認できない。また、リメディアル教育についても、具体的な実施内容や根拠資料が示されておらず、補習教育としての実態を把握することができない。（点検・評価項目①）

・学生部では、名城公園キャンパス事務室に関する報告が不十分であり、各キャンパスにおける取組状況を横断的に把握・共有する体制は十分とはいえない。今後は、全学的な視点から学生支援の実態把握を進めるとともに、学生支援体制のさらなる強化を図ることが望まれる。（点検・評価項目①）

・学生支援センターでは、合理的配慮にかかる就学支援について、申請件数の増加に対し担当体制が十分とは言えず、特に名城公園キャンパス、楠元キャンパスに専任職員が配置されていない点が課題である。（点検・評価項目①）

・情報推進部では、昨年の課題であった利用ピーク時に教室や貸出用パソコンが不足するといった状況について、その改善状況を確認することができない。（点検・評価項目①）

・国際交流センターでは、提出された根拠資料からは、昨年の検討課題である留学生会館（宿舎）の設置に関する検討内容や進捗状況を確認することができない。（点検・評価項目②）

【基準８】教育研究等環境

基準８においては、遠隔教育を含む多様な教育形態に対応したICT機器やネットワーク環境の整備、主体的学びの促進につながるラーニング・コモンズ等の整備が評価されている。また、研究倫理規程や研究データポリシー等の整備をはじめ、研究費の継続的な配分や研究環境の計画的な整備など、研究活動を支援するための取組も着実に進められている。一方で、教室設備やICT環境の老朽化への対応、Wi-Fi環境の改善など、教育研究環境の整備に関する課題も見受けられる。また、教育研究環境の改善に向けた組織的な意思決定プロセスを明確化し、中長期的な視点に立った計画的な環境整備を進めていくことが求められている。

＜長所・特色＞

・研究推進・社会連携部では、2024～2025年度に研究倫理規程、研究インテグリティ、研究データポリシー、安全保障輸出管理規程等を体系的に整備するとともに、教育面ではeAPRINを導入して教員・大学院生への受講義務化に加え、2025年度には新たに学部学生用リーフレットの作成・公開を通じて、

研究倫理に関する全学的な教育・管理体制の整備を推進している。(点検・評価項目③)

・財務部では、教員の研究活動を長期的な視点で支援するため、個人研究費や学内応募型資金などの研究費の継続的な配分、及び「古川学術研究振興基金」等の活用を含む研究環境の計画的整備を定期的に実施しており、これらの取組が各教員の研究活動の活性化、および成果の向上につながっている。(点検・評価項目③)

・施設部では、実験機器の導入に伴う付帯工事については、各学部事務室等からの要望に基づき、教員の研究費による負担とせず、施設部で予算計上し実施している。この取り組みにより、研究費が本来の研究用途に充当できることとなり、研究活動の活性化に寄与している。(点検・評価項目③)

・図書館情報センターでは、一般社会人向けに開講している「司書・司書補講習」は、東海地区で唯一の開講大学であり、修了生は大学図書館等、さまざまな分野で活躍している。また、有資格者を対象とした「司書学び直し講習(履修証明プログラム)」も開講しており、地域社会における高度な専門的人材育成に貢献している。(点検・評価項目④)

・情報推進部では、PC教室では統計解析ソフトウェアをはじめとする専門的なアプリケーションが利用できる環境が整備されており、SAによるサポート体制も確立されている。これらにより、授業や研究活動における高度なデータ分析や専門演習が円滑に実施でき、教育研究活動の質向上に大きく寄与している。(点検・評価項目④)

＜課題・問題点＞

〔検討課題〕

・教務部では、経年劣化に伴う教室AV設備、機器備品等の故障が多発している。教室改修履歴台帳による管理や教室環境改善会議などにおいて、更新優先度の検討に基づいた予算申請は実施されているが、教育研究環境を安定的に維持するためには、老朽化状況や故障頻度、授業への影響などを踏まえた中長期的な更新計画の策定や優先順位の明確化が望まれる。(点検・評価項目①)

・情報推進部では、学内ICTインフラに関しては、「学びに関する調査」において Wi-Fi 環境の改善を求める声が散見されるが、現状、在学生を対象とした利用実態の把握や、それに基づく具体的な改善計画の提示が十分に行われていない。また、情報処理教育センターの PC 環境は、機器更新費用が高額であることから更新サイクルに制約があり、全教室への最新 OS やソフトウェアの導入が困難な状況にある。(点検・評価項目①)

・研究推進・社会連携部では、大学全体として研究環境の適切性を定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上につなげるための全学的な推進・審議体制が十分に整備されていない。また、研究環境に関する課題や要望を継続的に把握・分析し、研究支援施策へ反映する仕組みが十分に確立されていないことから、教員からの要望を集約し研究支援施策へ反映させるPDCAサイクルの構築が課題である。(点検・評価項目④)

・図書館情報センターでは、予算示達額減少に加え、急激で過度な円安と物価上昇の影響により外国雑誌や電子ジャーナルおよびデータベースが値上がり、外国雑誌等の継続購入が非常に厳しい状況となっている。また、自己点検・評価の結果を改善につなげる、具体的なPDCAプロセスの可視化や、低学年学生の利用促進が課題として挙げられている。(点検・評価項目④)

・財務部では、研究推進・社会連携課と財務部門をはじめとする関係部署の連携が、「研究成果の財務的

検証」にまで至っておらず、支給された研究費や研究室の整備に使われた資金がどの程度、教育や研究成果に結び付いているかを多角的に検証できる体制の構築が望まれる。また、現時点では個人研究費・学内研究費は高い水準で確保・配分されている一方で、財務部単独では研究成果の質的把握が困難なため、資金の使途や効果を定量的に把握し、共有する仕組みが十分ではない。（点検・評価項目④）

・施設部では、過年度より継続課題となっている、教育環境や施設の更新の必要性等を定期的・組織的に検討し、点検結果を予算計画に反映させる全学的な会議体の整備が依然として途上である。そのため、どのような検討を経て改修・更新が実施されているのかが必ずしも明らかではない。また、実施した改修・更新が有効であったかを事後評価・検証する仕組みの整備も課題となっている。施設の整備にあたっては、教員、職員、学生等の意見を集約・調整し、検討を進めることが望まれる。（点検・評価項目④）

【基準９】社会連携・社会貢献

基準９においては、学部・研究科・社会連携センター等を中心とした組織が相互に協力し、多様な社会連携・社会貢献活動を展開していると評価されている。各学部・学科及び各研究科では、教育の特色に応じて、学外講師による実践的な連携授業の実施、学外への講師派遣、社会人対象セミナーの開催、地方公共団体や企業と連携した商品企画・教育開発等を行っており、学外組織との双方向の社会連携体制を構築している。

社会連携・社会貢献活動の成果については、参加者アンケートや受講者リポート等を活用し、各学部・学科及び研究科の自己点検・自己評価委員会等において点検・評価を行い、改善につなげている。さらに、地域連携、産学官連携、国際交流、地域医療への貢献など、各組織の特色や専門性を生かした多様な取組が展開されており、本学の社会連携・社会貢献活動の強みとなっている。また、教員個人の社会貢献活動についても、教員業績データにより共有され、各学部・学科及び研究科における点検・評価に活用されている。

＜長所・特色＞

・文学部宗教文化学科では、覚王山日泰寺や地域商店街との連携によるフィールドワークや、学生と教員が協働する地域連携活動など、宗教文化学科の専門性を活かした実践的かつ地域密着型の教育活動を展開している点は特色である。（点検・評価項目①）

・総合政策学部では、自治体やNPO等と連携し、地域や社会が抱える課題をテーマとした実践的な教育研究活動を推進している。また、研究フォーラムや講演会を継続的に開催し、多様な主体が社会課題について学び、議論する機会を提供している点は、総合政策学部の特色である。（点検・評価項目①）

・健康科学部健康科学科では、地域企業・団体との幅広い連携や海外研修を通じて、国内外の実践的な課外活動を積極的に推進している。ボランティアやインターンシップ等を通じて学生の実践力を育成するとともに、教育成果を地域社会へ還元している点が特色である。（点検・評価項目①）

・健康科学部健康栄養学科では、社会連携センターや学科会議を通じて社会連携・社会貢献活動を継続的に点検・評価し、活動状況や課題の共有を組織的に行っている。産学官連携や大学間連携の成果を次年度へ確実に継承し、継続的な改善と効果的な社会貢献活動の推進につなげている点が特色である。（点

検・評価項目①）

・心理学部では、企業や警察・消防との連携を通じて研究成果と専門知見を社会へ還元している。産学連携による研究の推進と、惨事ストレス対策への貢献を両立し、大学の社会的使命を効果的に果たしている点が特色である。（点検・評価項目①）

・歯学部では、地域社会との連携、国際学術交流、災害歯科医療支援、附属病院を活用した高度歯科医療の提供など、教育・研究・診療を一体化した多面的な社会連携・社会貢献活動を展開している。特に、愛知県唯一の歯学部を有する大学として、災害歯科医療支援体制を整備するとともに、海外大学との学術交流や国際協力を積極的に推進し、大学の専門性を社会へ還元していることは本学の特色となっている。（点検・評価項目①）

・薬学部では、地域の医療機関、薬局、企業等との共同研究や連携協定を通じて教育・研究成果を地域社会へ還元するとともに、韓国・漢陽大学及び米国・アリゾナ大学との学生交流、米国・ウエスタン大学からの研修生受入れなど、国際交流を継続的に推進している。また、生涯教育講座を学外にも開放し、地域の薬剤師をはじめとする医療従事者の資質向上に貢献している点が特色である。（点検・評価項目①）

・教養部では、英語学、宗教学、日本語学、第二外国語など、多様な専門分野の教員が公開講座、自治体連携、国際交流、留学生教育、生涯学習事業等に継続的に参画し、教養部が有する幅広い学問領域を社会へ還元している点は特色である。また、教室単位で複数教員が協働しながら長年にわたり社会貢献活動を継続していることは、教養部ならではの強みとなっている。（点検・評価項目①）

・心身科学研究科では、心理臨床センターを通じて地域住民の心の健康支援を継続的に実施し、健康科学専攻では市民教育や健康づくり教室を通じて地域の健康増進に貢献している。さらに、研究成果を紀要や学術誌で広く発信し、教育・研究と社会貢献を有機的に結び付けている点が特色である。（点検・評価項目①）

・歯学研究科では、未来口腔医療研究センターを拠点として、医学教育共同利用拠点との教育連携、ベトナムにおける国際医療協力、宇宙歯学研究、歯科個人識別・鑑定研究など、多様な専門分野を生かした社会連携・社会貢献活動を展開している。また、外部研究者の受入れや研究機器の学外開放を通じて教育・研究資源を広く社会へ還元している点が特色である。（点検・評価項目①）

・薬学研究科では、各研究室が学外機関との共同研究を推進するとともに、大学院生の国際学会発表を奨励し、海外協定校との交流体制を整備するなど、研究活動を基盤とした社会連携・社会貢献を推進している。また、研究成果を学術論文や学会発表に加え、教員情報や研究室ホームページを通じて積極的に社会へ発信していることも特色である。（点検・評価項目①）

・歯学部では、教員活動業績評価に社会貢献活動を位置付け、教員個人の活動状況を継続的に把握・評価する仕組みを構築している。また、その評価結果を附属病院における病院教授・病院准教授称号付与制度などへ活用し、地域医療の質の向上につなげている点は特色ある取組であり、さらに、学術交流活動についても専門委員会による点検・評価体制の整備を進めるなど、継続的な改善に向けた姿勢が認められる。（点検・評価項目②）

・薬学部では、社会連携活動推進委員会、国際交流委員会、生涯教育委員会の活動を自己点検・評価委員会及び評価改善委員会が組織的に点検・評価し、その結果を各委員会へフィードバックすることで継続的な改善につなげる体制を整備している。また、薬学教育評価機構による第三者評価結果の活用や、先

端医療開発コンソーシアム（C-DAM）への参画を通じて、教育・研究成果の社会実装や社会貢献のさらなる充実を図っている点は特色である。（点検・評価項目②）

・教養部では、公開講座や国際交流事業等の参加者アンケートの結果を社会連携センター運営委員会や国際交流センター運営委員会で共有するとともに、『教養部紀要』を通じて教員の対外活動を可視化し、教養部全体で情報共有を図っている。また、教養部FD活動等を活用した組織的な改善方策についても具体的な検討が進められている。（点検・評価項目②）

・歯学研究科では、大学院歯学研究科自己点検・評価委員会と未来口腔医療研究センターの双方において社会連携・社会貢献活動を継続的に点検・評価し、その結果を歯科医学教育者向けセミナーやワークショップの企画・改善へ反映するなど、PDCAサイクルに基づく組織的な改善を実施している点が特色である。（点検・評価項目②）

・研究推進・社会連携部では、中学校向けキャンパス体験教育プログラムは受入校数・参加者数とも増加し、高い満足度を維持するとともに、中学生の探究学習・キャリア教育と大学生の学修成果発信を両立する優れた地域連携事業となっている。また、名城公園キャンパスでは名古屋市との公民連携拠点を常設化し、日進キャンパスでは自治体との連携拠点形成を試行するなど、各キャンパスの立地や特性に応じた社会連携を展開している点は優れた特色である。（点検・評価項目②）

＜課題・問題点＞

〔検討課題〕

・薬学研究科では、連携協定を締結している機関との具体的な連携実績や、国際交流事業の継続的な実施が十分とはいえない。（点検・評価項目①）

・薬学研究科では、「社会連携・社会貢献活動に関する調査結果」における具体的な改善策や成果へ結び付けるPDCAサイクルをより明確にすることが望まれる。（点検・評価項目②）

【基準10】大学運営・財務

基準10においては、大学及び法人の運営について、各種規程を整備し、それらに基づく適切な運営体制を構築していると評価されている。また、組織体制や意思決定プロセスの整備、自己点検・評価と改善指示の仕組みの運用、三様監査による監査体制の充実など、大学運営の適切性を確保するための取組が進められている。一方で、大学運営方針のさらなる浸透、人員配置や人材育成に関する根拠資料の整備、改善施策の成果を検証する仕組みの充実などが課題として挙げられている。また、財務面では、授業料以外の収入の多様化に向けた取組やその成果の可視化、中長期的な財務見通しに基づく分析・検証の充実が求められている。今後は、大学運営及び財務に関する点検・評価の実効性を高めるとともに、中長期計画と連動した持続可能な大学運営を推進していくことが必要である。

＜長所・特色＞

・総務部では、組織体制および意思決定プロセスが規程に基づき整備されており、役職者の権限と責任が明確化されている。また、情報共有および審議の流れが体系的に構築されている。((1)大学運営 点検・評価項目①)

・総務部では、自己点検・評価と改善指示の仕組みが整備されている。((1)大学運営 点検・評価項目④)
・秘書部では、監事、内部監査室、会計監査人の異なる監査機能（三様監査）で監査を実施している。また、定期的に三者及び監査支援を行う事務担当者で連絡会を実施して情報共有することにより、監査の質の向上が図られている。((1)大学運営 点検・評価項目④)

＜課題・問題点＞

〔改善勧告〕

・総務部では、所管する大学運営に関する取組について、実施状況に加え、その成果や課題を把握・整理し、自己点検・評価を通じて継続的な改善・向上につなげる取組の充実が望まれる。((1)大学運営 点検・評価項目④)
・財務部では、評価の視点に対する現状説明について、点検・評価が十分とはいえず、また根拠資料との連関性も不足している。財務関係帳票は専門性が高いことから、現状説明における具体的な記述が必要である。また、財務比率はホームページ上で公開されているものの、中長期計画の目標設定が大学運営の健全化にどのようにつながるのかが十分に示されておらず、監事による病院部門の調査進度に関する具体的な説明も不足している。さらに、先を見据えたシミュレーションが実施されていないことから、目標達成状況を把握し改善につなげる取組が課題である。((2)財務 点検・評価項目①)
・財務部では、授業料以外の収入の多様化について、「授業料以外の収入の多様化の措置」及び「当該措置による財源確保の進捗」に関する具体的な記述が不足している。寄付金募集の新設・充実が掲げられているものの、従前から寄付金収入に関する取組は実施されており、新たな取組であることや財源確保の進捗が必ずしも明確ではないことから、改善に向けた自己点検・評価が十分とはいえない状況となっている。一方で、外部資金獲得のための情報を集約し、学内研究者へ情報提供する仕組みを刷新したことは評価できることから、今後は資金獲得の成果を明確に示すことが望まれる。((2)財務 点検・評価項目②)

〔検討課題〕

・総務部では、大学運営方針について、教職員へのさらなる理解の浸透を図る余地があることから、共有方法の充実が課題である。((1)大学運営 点検・評価項目①)
・財務部では、予算方針における項目と予算書における勘定科目との連携について、予算方針から勘定科目別に振り替えられた資料がないことから、予算書（事業活動収支計算書等）上にどのような影響を及ぼすのかが不明な状況である。また、高額取引となる「業務委託」について、業務内容及び業者選定等に関わる取決めである規程の整備が必要である。((1)大学運営 点検・評価項目②)
・人事部では、適宜業務内容に応じた適切な人員配置に努めていると記載されているものの、人員配置や各部署の人数が適切に配置されているかを判断する資料が十分に示されておらず、また、専門的な知識や技能を有する職員の育成・配置についても同様の状況にあることから、方針及び現状を示す資料の整備が必要である。((1)大学運営 点検・評価項目③)
・内部監査室では、三様監査体制により大学運営の適切性が担保されていることは示されているものの、三様監査の結果を大学運営に活用する取組やその成果が必ずしも明示されていないことから、それらを示す資料の整備が必要である。((1)大学運営 点検・評価項目④)

・人事部では、「大学運営に関する状況については、人員配置や人材育成の側面だけではなく、多面的に状況を捉えなければならない。多面的な状況の把握については一部署では難しいため、全学的に状況を把握する必要がある。」との課題に対する進捗状況又は改善策について、その内容が具体性に乏しいことから、事業計画に基づく人員配置及び組織運営の改善に関する取組計画の策定と、その進行状況の把握が必要である。((1)大学運営 点検・評価項目④)
・財務部では、「資金収支月次報告書」を報告するだけでなく、１年後・３年後・５年後など今後の予想値を提示できるよう、報告書の分析を進め、健全な大学運営につなげる必要がある。((2)財務 点検・評価項目③)

５．2025年度自己点検・評価シート（大学独自評価項目）委員会評価結果について

＜表８＞ 評価結果一覧（大学独自評価項目）

点検・評価項目	評価の視点	組織	委員会評価
各組織において業務内容の点検を行い、持続的に改善・向上の取り組みを行っていること。	（１）各組織の目的や事務分掌に則り、当該年度の目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 （２）学生や利用者、その他関係者等からの意見・要望に基づき、改善・向上の取り組みを行っているか。	総務部	B
		教務部	B
		学生部	B
		キャリアセンター	A
		入試センター	A
		研究推進・社会連携部（研究推進部）	A
		研究推進・社会連携部（社会連携部）	S
		名城公園キャンパス事務室	A
		薬学部事務室	A
		歯学部事務室	S
		歯学部附属病院事務室	A
		大学教学改革推進企画室	A
		図書館情報センター	A
		学生支援センター	A
		国際交流センター	B
		内部監査室	A
		秘書部	B
		人事部	B
		情報推進部	A
		財務部	A
		施設部	A
		経営企画室	A
		法務・コンプライアンス室	B

＜表９＞ 評価結果の比較（2025年度・2024年度）

評価	2025年度		2024年度		比較
	評価数	割合	評価数	割合	（増減pt）
S評価	2	8.7%	0	0.0%	8.7
A評価	14	60.9%	10	43.5%	17.4
B評価	7	30.4%	10	43.5%	-13.0
C評価	0	0.0%	1	4.3%	-4.3

2025 年度は前年と比較して評価分布が上位層にシフトし、A 評価以上の割合が大幅に増加した。特に「A 評価」は 60.9%を占め、S 評価も増加していることから、組織全体として取組が概ね順調に進み、一定の成果につながっているものと考えられる。また、B・C 評価は減少しており、個々の職員の能力向上や事務組織全体のパフォーマンス向上に向けた取組が、その要因の一つとなったものと考えられ

る。一方で、B 評価となった項目については、取組状況や改善状況を継続的に把握し、定期的に進捗を確認する必要がある。

【大学独自評価項目】業務内容の点検を行い、持続的に改善・向上の取り組み

＜大学部門の現状と主要課題＞

大学部門での全体的な傾向として、多くの組織が、中期計画や各組織の年度方針に基づいて目標を設定し、委員会や会議体で進捗を確認している。学生部と学生支援センターは年度目標を設定していないが、具体的な改善活動は実施している。

改善の中心テーマとして、学生サービス向上、業務標準化・属人化解消、DX、外部連携、収支・定員確保、内部質保証を挙げており、今後の共通的な論点として、目標と実績を測る指標の明確化、取組後の効果検証、次年度への改善反映が挙げられる。

大学部門の各組織における自己点検・評価結果から見える主な取組及び課題は、次の5点に整理できる。

１．学生募集・定員確保

入試センター、歯学部事務室、国際交流センターで課題が顕在化しており、特に歯学部定員確保は大学全体の重要課題となっている。

２．学生支援・学生満足度向上

学生部、学生支援センター、名城公園キャンパス事務室、図書館情報センターにおいて、利便性向上、相談体制の整備、学習環境改善を中心に取り組んでいる。

３．DX・業務効率化

教務部、学生部、大学教学改革推進企画室を中心に、BIツールの導入やオンライン申請の拡充など、業務効率化に向けた取組が進められている。

４．内部質保証とPDCAの実効性向上

大学教学改革推進企画室を中心に、各部署で目標管理や成果検証の仕組みづくりが進められているが、さらなる実効性向上が求められている。

５．外部連携・社会貢献の強化

研究推進・社会連携部、国際交流センター、総務部を中心に、地域連携、研究連携、国際連携の拡大が進められている。

これらの自己点検・評価から見える現状主要課題として、各部門固有の課題はあるものの、大学全体としては以下の5つが重点として整理できる。

１．学生募集・定員確保

最も大きな経営課題は歯学部の定員確保である。高校訪問や特待生制度などの対策を実施しているが、依然として定員未充足の状況である。大学全体のブランド戦略、広報戦略、奨学金施策を含めた中長期的な学生募集戦略の強化が求められる。

２．教育・学生支援の質向上

教育改革、教学 IR、合理的配慮、キャリア支援など学生支援の取組は進展しているが、「取組を実施したこと」と「成果が向上したこと」の因果関係を十分に示せていない部署が多くみられる。今後は学生満足度や学修成果などの客観的指標に基づく効果検証を進め、更なる質向上につなげる必要がある。

３．DX・データ活用による業務改革

業務の属人化解消や効率化に向けた取組は各部署で進められているが、大学全体としてはまだ発展途上の状況である。教学IR、BIツール活用、オンライン手続化などを全学的な視点で推進し、意思決定の高度化と業務効率化を図る必要がある。

４．内部質保証とPDCAの実効性向上

多くの部署で改善活動は実施しているが、「目標設定 → 実施 → 効果測定 → 改善」のPDCAサイクルが必ずしも十分に機能していない。また、一部部署では年度目標が設定されていない。今後は、組織目標、成果指標（KPI）、評価基準を明確化し、大学全体の内部質保証体制を強化する必要がある。

５．外部資金・外部連携の拡大

研究推進、社会連携、国際交流の各分野では一定の成果が見られるものの、科研費採択率の向上、地域連携の拡大、留学者数の回復などに課題がある。研究資金獲得、産学官連携、国際連携を大学の成長戦略として位置付け、収益基盤と社会的評価の向上につなげることが重要である。

＜法人部門の現状と主要課題＞

法人部門の各組織における自己点検・評価結果から見える主な取組及び課題は、次の5点に整理できる。

１．制度・規程の整備から実運用への移行

人事部、法務・コンプライアンス室、内部監査室を中心に、人事評価制度、コンプライアンス体制、リスク管理体制などについては制度設計が進んでいるが、今後は制度の実施・定着を図り、その実効性を高める段階へ移行することが求められる。

２．年度目標と成果指標の明確化

内部監査室、情報推進部、施設部では年度目標が設定されておらず、秘書部は目標が日常業務の範囲にとどまっている。具体的な到達目標と評価指標の設定が必要である。

３．DXによる業務効率化と学生サービス向上

情報推進部では、基幹システム（GAKUEN・UNIPA）の安定運用に加え、RPA活用、オンライン証明書発行、クラウドストレージ活用など、DX推進が進展している。今後は、システム運用からデータ活用による業務改革へ発展させることが期待される。

４．経営基盤の強化

財務部では収入源の多様化や運用体制の整備を進めるとともに、経営企画室では創立150周年事業に係る寄付募集や関連事業の進捗・費用管理を行っている。また、施設部では日進キャンパスの在り方に関する全体計画を進めている。

５．取組効果の継続的な検証

システム導入、資金運用、事業会社設立、監査改善、規程整備について、実施後の効果を法人全体として継続的に検証し、次の改善につなげる仕組みの構築が重要である。

これらの自己点検・評価から見える現状主要課題として、法人全体としては以下の5つが重点として整理できる。

１．ガバナンス・内部統制体制の実効性向上

人事評価制度は制度設計段階から導入準備段階へ移行しつつあり、コンプライアンス体制、リスク管理体制、公益通報に関する規程等の整備も完了している。今後は、「制度を整備する段階」から「運用を定着させ、有効に機能させる段階」への移行が重点課題である。

２．DXによる業務効率化と学生サービス向上

基幹システム（GAKUEN・UNIPA）の安定運用、RPA活用など、DX推進は進展しているが、今後はデータ活用による業務改革を推進し、組織全体の効率化と学生サービス向上につなげていく必要がある。

３．財務基盤強化への取組

資金運用管理委員会を設置し、運用体制を整備している。また、事業収入拡大に向けて事業会社を設立しており、今後は収益性や法人業務の効率化効果を検証する段階に入る。学生納付金への依存度を低減し、財源の多様化を進めることが求められる。

４．キャンパス再整備と施設マネジメントの推進

日進キャンパス全体計画の検討を進めるとともに、老朽化対応のための耐久性調査や施設改修の準備を進めている。施設マネジメントは施設更新費用の増加を見据えた中長期的な経営課題である。

５．創立150周年事業を経営戦略の柱とした推進

寄付目標50億円の達成に向けた進捗管理と、150周年関連プロジェクトの費用管理を実施している。寄付事業と将来構想を連動させながら、戦略的な資金調達を継続することが重要である。

法人部門全体としては、「ガバナンス強化」「DX推進」「財源多様化」「施設再整備」を中心に改革が進展している。一方で、多くの施策は制度整備や計画策定の段階にあり、2026年度はその実装と成果検証を進める年と位置付ける必要がある。

＜長所・特色＞

・研究推進・社会連携部（社会連携部）では、2025年度より創立150周年記念事業として「シャチ活チャレンジ応援金制度」を創設したことは、学生の主体的な地域活動を促進する先進的な取組として評価できる。学生が主体的に地域社会と関わる活動を支援する仕組みを整備したことで、17件の応募のうち10件を採択するなど具体的な成果につながっており、学生の主体性を活かした社会連携・社会貢献活動の活性化に寄与する先進的な取組として評価できる。また、自治体や地元産業界等との組織的かつ継

続的な連携を推進した結果、「私立大学等改革総合支援事業 タイプ3（地域社会の発展への貢献・地域連携型）」に3年連続で選定されたことは、本学の社会連携・社会貢献活動が対外的に高く評価されたものであり、地域社会の発展に貢献する大学としての特色を示す優れた実績である。

・名城公園キャンパス事務室では、「2025MKC業務運営方針」を策定し、組織目標を各担当者の目標へ具体的に落とし込むとともに、所属長との定期面談により進捗確認・フォローを実施するなど、組織的な目標管理体制を構築している。また、「学びに関する調査」の結果や学生ボランティア団体との協働を通じて学生ニーズを把握し、座席増設、喫煙環境改善、新入生歓迎イベントの企画など、学生の意見を反映した実効性の高い改善を継続的に実施している点は、本学の学生支援体制の特色として高く評価できる。

・歯学部事務室では、法人の中期計画の重点施策でもある「歯学部入学定員充足」についても、西日本エリアを中心に本学歯学部への進学実績がある、又は進学が見込まれる高等学校への訪問を教員とともに事務担当者も同行し、歯学部の現状や特色について直接説明を行うことで、高等学校との関係強化と志願者確保に向けた積極的な活動を展開しており教職協働の体制が高く評価できる。また、2025年度には新たな取組として中部日本デンタルショーへ出展し、来場者に対して歯学部の教育・研究活動やオープンキャンパス等に関する情報発信を行った。従来の募集広報手法にとどまらず、歯科医療関係者や将来の歯学部志願者層との新たな接点を創出する取組を実施している点は、募集力強化に向けた特色ある活動として評価できる。

・大学教学改革推進企画室では、自己点検・評価結果から抽出した課題を大学執行部会で協議し、「改善勧告」及び「課題改善計画兼報告書」の提出を求める仕組みを新たに導入するなど、改善の実効性を高める体制を構築している点は評価できる。

・学生支援センターでは、全キャンパスを対象に、学生相談、保健管理、合理的配慮及びハラスメント対応を一体的に所管し、学生支援を総合的・横断的に実施している体制は全国的にも珍しい事例であり、本学の特色として評価できる。

・内部監査室では、三様監査（監事・会計監査人・内部監査室）の連携により、監査の実効性と改善状況の継続的な確認体制を確立している点について高く評価できる。

＜課題・問題点＞

〔検討課題〕

・総務部では、第2期中期計画で目標としていた「卒業生と協力した新規連携活動の企画」や「同窓会と連携した新たな企画」の実施に至らず、卒業生・同窓会との連携強化が十分に進んでいない。また、総務課業務の整理・優先順位付けが十分でなかったことから、協業機会の創出ができなかった。さらに、大学としてのBCP（事業継続計画）の策定に必要な危機管理規程・マニュアル等の整備が遅れており、設置校としての行動マニュアル及び大学版BCPの整備が完了していない。

・薬学部事務室では、薬学部生の就職活動の早期化により、授業・実習・国家試験対策との両立が課題となっており、低学年から計画的なキャリア形成支援を継続的に充実させる必要がある。

・大学教学改革推進企画室では、教学IRについて、各種調査結果を教育改善へより効果的に活用するため、データの横断的分析や分析基盤の強化が望まれる。